採択プロジェクトの概要（ライフエレメンツ株式会社）

別添4

高齢者の自立生活を支える見守り住宅サービスの実証

【背景】
- ◆ 高齢化や独居・高齢者のみ世帯の増加により、住み慣れた住宅で安全・安心に暮らし続けるための見守り機能が求められている。
- ◆ 既存の見守りは単一機器による安否確認や通知にとどまることが多く、生活リズムの変化に基づく予兆把握、住宅内プライバシーへの配慮、家族・介護・住宅支援者間の情報共有には課題がある。

【目的】
- ◆ 外部見守り機器を含む複数の住宅内IoTデータを統合し、居住者ごとの生活リズム変化から異常・予兆を検知する。
- ◆ 異常時のみの閲覧制御、権限別ダッシュボード、閲覧ログ等により、住宅内プライバシーと支援者間連携を両立し、実住宅における有効性、受容性、運用可能性を検証する。

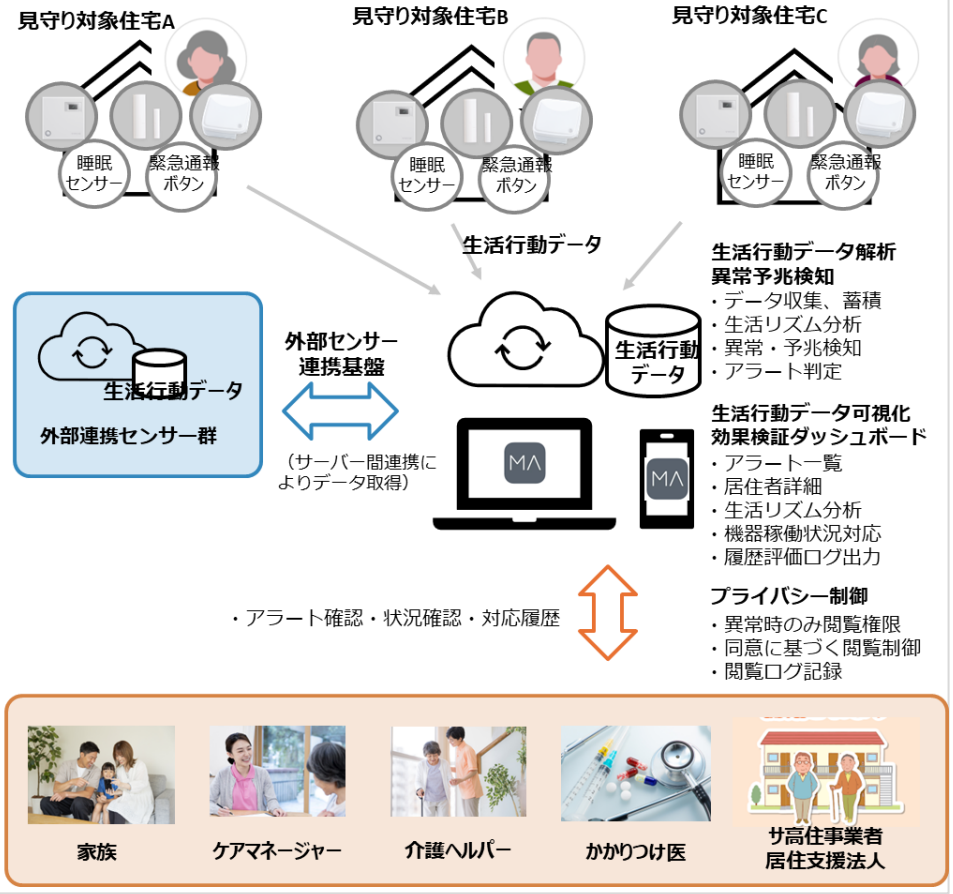
【実証内容】
- ◆ 見守り対象住宅に開閉・離床（睡眠）、人感等のセンサーを設置し、外部機器を含む生活行動データをサーバー間連携で取得・統合する。
- ◆ 活動量、睡眠、移動、長時間無活動、生活リズム等を分析し、居住者別ベースラインからの変化に基づく異常・予兆検知ロジックを検証する。
- ◆ 権限別見守り・効果検証ダッシュボードにより、アラート、居住者詳細、生活リズム、機器稼働状況、対応履歴、評価ログを可視化する。
- ◆ カメラ等は常時閲覧を前提とせず、異常時・同意条件・権限に基づく閲覧制御と閲覧ログにより、住宅内プライバシーとの両立を検証する。
- ◆ 家族、介護事業者、ケアマネジャー、住宅事業者・居住支援法人等による確認負担軽減、運用可能性、継続利用意向を評価する。

検証項目
- ・異常・予兆検知の有効性
- ・家族・支援者の確認負担軽減
- ・生活・ケアの質の向上
- ・宅内プライバシー受容性
- ・センサー設置性・通信安定性
- ・継続利用意向
- ・住宅サービスとしての普及課題

【スケジュール】
- ◆ 令和8年度：データ収集計画、外部センサー連携、実証用ダッシュボード、閲覧制御機能の設計・整備、見守り住宅へのテスト導入
- ◆ 令和9年度：見守り対象住宅への本格導入、生活行動データ取得、異常・予兆検知、ダッシュボード運用実証
- ◆ 令和10年度：効果検証、プライバシー受容性・運用負荷評価、住宅サービス化に向けた改善・展開検討

【概要】

高齢者の自立生活を支える見守り住宅サービスの実証の全体像



【実証体制】
- ◆代表提案者：ライフエレメンツ株式会社
  機器・システム提供、異常・予兆検知ロジック提供、効果検証
- ◆見守り事業者：コウダイケアサービス株式会社
  24時間見守り提供者として実証フィールド提供
- ◆外部IoT機器提供：株式会社バイオシルバー
  睡眠（離床）センサーを提供